

## 令和7年度 第2回飯山市図書館協議会 会議録（要旨）

- 開催日 令和8年2月18日（水）午後4時～5時10分
- 開催場所 飯山市公民館101会議室
- 参集者 委員7名  
飯山市（事務局）5名

### 1 開会 図書館長

### 2 あいさつ

会長：年末や今年に入って雪がたくさん降りましたが、2月も半ばとなり少しずつ春の日差しになってきました。今オリンピックで盛り上がっていますが、世界や日本の状況などいろいろ注視していかなければならないと思っています。

本日は図書館の立場や役割などに関して、委員の皆さまからこの場でご意見をいただき、よりよい市立飯山図書館になればいいと思っています。

教育長：委員の皆さまには、お忙しい中をお集まりいただき誠にありがとうございます。日ごろより市立飯山図書館の運営にご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。

昨今 SNS の普及や書店の減少など様々な要因により若年層の読書離れが言われています。図書館では、生後4か月のお子さんへ本を1冊プレゼントするブックスタートを行っているほか、令和8年度からは以前行っていたセカンドブックの対象を生後10か月のお子さんから3歳児に見直して再開する予定で進めています。本は物の見方を深めるほか感性を豊かにしてくれるもので、幼少期から本に親しんでもらうことで、子どもたちの心身の成長の一助になればと考えています。

たくさんの児童書を寄贈していただいたことをきっかけとした絵本で育てるまちづくり事業は、今年度より絵本の魅力や世界観を伝える「いい山えほんコミュニケーター」の皆さんによる活動を本格的に始めさせていただき、イベントや高齢者施設などでおでかけおはなし会を開催してきました。おはなしを聞いている方々からはよかったという声をいただいているほか、絵本等を読んでもらっているえほんコミュニケーターの皆さんからも楽しかったという声をいただいている、市民の皆さま方により本を身近に感じていただけるきっかけになるものと考えています。

本日は令和7年度の事業報告や令和8年度の事業計画等を説明させていただきますので、委員の皆さまの率直なご意見を伺えればと思っています。今後も運営委員の皆さまのお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

### 3 協議事項

- (1) 令和7年度事業報告について 図書館係長説明 資料1～7ページ
- 事務局：移動図書館車について、第1回目の会議で利用のないステーションが見られ

るとの指摘をいただき、区長会に出向き各地区でも話題にしてほしいと話をしたり、移動図書館車の日程表を市報の配布に合わせ、3か月に1回、隣組回覧した。その後地区からの要望等は届いていないが、令和6年度末で利用のないステーションが6か所あったが、この1月末までの集計では3か所に減っている。

## (2) 令和8年度事業計画について

- ①運営方針(案) 図書館係長説明 資料8ページ
- ②事業計画(案) 図書館係長説明 資料9～14ページ

事務局：令和8年度は美術館で絵本原画展が企画されているので、美術館との連携で、そこでえほんコミュニケーターに絵本を読んでもらうことも考えている。

## (3) 寄贈図書の受け入れ進捗状況について

- ①笹本文庫 図書館係(司書)説明 資料4・6・7ページ
- ②上野氏寄贈本 図書館係(司書)説明 資料6・15ページ

館長：笹本先生の図書の寄贈については、平成27年に契約を結んで進めてきている。約2万冊を寄贈いただけることになっていて、今それが目前になっている。先生自身も飯山市を非常に気にかけてくださっていて、今県立歴史館では冬季企画展として「霊場小菅」が開催されているが、そこでも非常に宣伝をしていただいている大切な方である。

上野さんの寄贈本については、8千冊ほどいただいているが、そのうちの2千冊くらいが既に図書館で所蔵しているものとダブっているということで、それについては各保育園で希望があれば使ってくださいとか、公民館の休憩室に置いて読んでいただけるようにとあわせて活用を図っている。

教育長：笹本先生は、県立歴史館で小菅の魅力ということで1月に講演されていて、iネットでも放映された。また、ふるさと館の丑山学芸員の小菅についての講演もあって今年は注目を浴びている。書物もいろいろあるので興味があれば見ていただければありがたい。

委員：資料6ページの全館利用統計の中で、総計が年々減っていると推測するが、減っているとしたら人口の減少だとかネットの普及だとか、その辺りの分析や考察があれば教えてほしい。

事務局：一つには電子書籍が身近になってきていることがあると思う。

デジとしょについては、資料4ページに記載のとおり令和8年1月末で184人の登録、貸出冊数は2,904冊となっている。1年前の令和7年1月末では登録者数158人、貸出冊数2,432冊であり500冊ほど増えているが、デジとしょについては図書館の統計に入らない。デジタルの部分が伸びるのはいいことだと思うが、図書館の貸出しは減っている。全館利用について、令和6年と比べると利用人数や貸出冊数は減

っている状況だが、絵本で育てるまちづくり事業を始める前の令和5年では貸出冊数50,188冊、利用人数13,357人であるので、事業を始めたことによって利用者も増えているのかなと感じている。

委員：えほんコミュニケーターについて、1期生が22名、2期生が19名、さらに講座を開設するというので、おでかけおはなし会などで実際動かれている方の人数はどれくらいか。

事務局：令和7年については、おでかけおはなし会などは声かけして手を挙げられた方に参加いただいた。また、名簿から当てさせていただいた部分もある。市報に絵本の紹介をしてもらったので、それも含めると皆さんに活動していただいたと思っている。個人的な事情で参加できない人もいる。この2月28日にえほんコミュニケーターの意見交換会を予定しているので、来年度はより活発な活動ができればありがたいと思っている。

今年は1期生に動いていただいたが、おでかけおはなし会やデイサービスや集落サロンなどに行っていたら、あるいは広報に参加いただいたりとか何かしら関わってもらった。

委員：新しい事業として企画されて、子どもたちも地域の方も喜んでいと思う。今までにしていなかったことを、たくさんの方の人数の方にいろいろなところを要請して参加してもらうという作業は大変なことだと思う。

#### (4) その他

館長：図書館はボランティアの皆さんに大変お力添えをいただいている。3年くらい前から蔵書点検に携わっていただいている非常に助かっている。また、えほんコミュニケーターの関係についてもボランティアであり、これは図書館が表に開かれていくような、本当に最前線ということでこれからも大事にしていきたいと思っている。その中で組織をつくと会長を決めたりするが、そういうことは決めないで、緩やかな、強制をしない、自ら来ていただけるようなところに注意をしながら進めている。

委員：保育園では図書館の本に子どもたちの人気があって借りていくが、誰に読んでもらったかと聞くと自分で読んだとかと返ってくるので、できればお家の人と一緒に読んでほしいという思いがあって、大きい子どもたちもこちらで一对一で読んであげるととても喜んでいるので、こちらからの投げかけも大事になってくると思う。

来年度からえほんコミュニケーターに保育園に出張してもらえるということなので呼ばせていただきたいと考えている。

館長：保育士さんたちも読み語りができるけれども、そういった部分を軽減しながら上手にえほんコミュニケーターと交わってもらえればいいという思いはずっとあり、調整するので活用いただけると嬉しい。

会長：図書館利用カードのアプリについて。

事務局：基本的には利用カードは引き続き使っていくが、これからは操作すると自分の

スマホに表示されるようになるということで、そうすると利用カードをお持ちいただくともよくなるようになる。

会長：自分のカードは随分古い。また、どこへしまったか探すこともある。本を借りるときに返却日を記したレシートを出してもらっているが、そういうことが何か一つのアプリで見られるようになると助かる。

事務局：スマホにバーコードが表示されるようになるので、利用カードを紛失の場合の再交付のときに100円かかっていたが、もしそれがスマホでデジタル対応になればかからなくなるかなということと、利用者のページというのが図書館のホームページにあるので、そこへアクセスすると返却日が確認できるようになる。その場合はパスワードを決めていただかないといけないので、まだ決めてない方は決めてからの利用となる。

会長：寄贈図書に関して、笹本文庫の貸し出しが少ないというのは、市民の皆さんへ周知されていないということと、ちょっと敷居が高いということと、城南中学校にあるので気軽に借りられないということと、専門書が多いということかと思っている。

上野さんの図書は、とても親しみやすい絵本が多かったと思うのでたくさん借りられてよかったと思う。

絵本で育てるまちづくりについて、絵本で子どもたちを育てていくということだと思うが、絵本で巻き込んで観光にもつなげていくという含みもあるのか。

事務局：参加している子どもだけでなく大人も楽しんでいて、やっている方たちも楽しんでいる。いろいろな意味合いでいいと思う。

会長：今世の中は押し活が流行っていて、そういう視点からするとここは絵本の何とかの聖地だよとなった場合、結構観光客も訪れるようになるのかなとも思うが、育てるということであれば経済から切り離して事業を見ていくというのが大事になると思う。

あと一点、1か月くらい前に絵本作家の五味太郎先生がテレビに出演されておっしゃっていたが、「きんぎょが にげた」という代表作があるが、この作品には社会にも逃げ場があるっていうメッセージが込められていることが先生から語られて、ものすごく感銘を受けた。先生のお子さんが不登校のときにその絵本を作って、学校の中とかじゃなくても、社会に出て自分の居場所ができるというメッセージが込められているということで、絵本から学べることが大人になってからもあるので、絵本で育てるまちづくりというところで繋がってくるのかなと思った。

委員：先日デイサービスで大きな紙芝居を行ったが、デイサービスの利用者に好んで見ていただく作品を選ぶにあたり大型紙芝居が少ないと感じた。城北小学校でも読み語りをしていて、1クラス20~30人と多い中で、大きな作品もやってあげたいというときに、子ども向けのもの、あるいは高齢化社会となってきた集落サロンやデイサービスへ行くということが出てくると思うので、大きな紙芝居を増やしていくことは可能か。

事務局：3月議会で審議される令和8年度予算には大型絵本や大型紙芝居の購入についても要望しているところ。一気に増やすわけにはいかないが、少しずつ購入していきたいと思っている。

#### 4 その他

##### (1) 女性センター未来の廃止、公民館の一部への転用について 図書館係長説明

事務局：今年度末で女性センター未来を廃止し、公民館の一部として使用できるよう準備している。女性センター未来については、平成3年に女性の福祉の推進と地位の向上を図るという趣旨で働く婦人の家として開館し、平成14年にいいやま女性センター未来と改称し、就業への技能の取得に必要な講座の開設や相談、レクリエーションの場として女性中心に利用いただいていた。近年は女性の就業に関する講座の要望や相談がなく公民館と変わらない利用状況であり、令和3年度末には県の上部組織も解散したことから、登録団体の代表者会議で女性センター未来の今後のあり方について話し、令和6年の年末には利用団体にヒアリングさせていただいた。公民館の一部として使用していくことに反対の意見はなかったので、国や県と協議し承認されたという状況である。この3月市議会に諮っていく。

##### (2) 学びのエリアアンケート結果について 図書館係(司書)説明 資料16～27ページ

事務局：学びのエリアの各施設の課題の集約、今後のあり方の検討材料とするため、市民の皆さまにアンケートを実施した。期間は昨年6月12日から7月24日までで、各館に回答箱を設置するほか公民館の利用団体や社会教育委員、無作為抽出の皆さまなどにも送付し回答いただいた。(図書館分 資料22～23ページ)

##### (3) 第3次飯山市子ども読書活動推進計画について 図書館係長説明

事務局：現在、令和8年度からの教育大綱の策定が進められている。第3次飯山市子ども読書活動推進計画について、2年前の子ども読書活動推進計画策定委員会では令和5年度で終了の第2次計画を2年延長し、教育大綱策定の中で第3次計画を策定していく方向になっていた。国では、市町村の上位計画に子どもの読書活動推進について触れていれば、それに代わるものとしていいということが示されていたことからそういう方向が出されたが、教育大綱自体が大変大きな計画であり、広く教育・生涯学習・文化活動などにおいて市の目指すところが示されていて、細かい内容までは記載できない状況である。そこで、第2次計画は2年延長になっているが、もう1年延長させていただき、来年度第3次飯山市子ども読書活動推進計画を策定したいと考えている。絵本で育てるまちづくり事業といった新たな事業も展開しているので、その辺も加えながら計画を作っていきたいと思う。図書館協議会委員の皆さまに司書が加わって子ども読書活動推進計画策定委員会を構成する予定でいる。ご協力をいただきたい。

館長：2年前に第3次計画を策定しなければいけなかったが、その矢先に国から上位の大きな計画の中に子ども読書活動推進計画を入れてもいいという方針が示された。実際教育大綱の策定を始めてみると細かな部分まで挙げていくのはどうかということで、そうした細かい計画は図書館独自で作っていかうということになった。県下19市中、飯山市だけがこのような状況であり、計画の策定にあたっては長野県の子ども読書活動推進計画などを参考にして策定していくことになる。

## 7 閉 会 図 書 館 長